
魔女の呪い

くまのすけ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔女の呪い

【Nコード】

N3705I

【作者名】

くまのすけ

【あらすじ】

同級生からブス魔女なんてあだ名をつけられるような、かわいそうな私。

一生懸命クラスのみんなを笑わせるピエロを演じていた。

でも、私が一番爽快な気分になれるのは、学芸会の劇でクラスのアイドルたちを魔女になっていじめること。

今日も私。すみれちゃんをいじめて気分爽快

人生って、残酷！

私は、小さい頃から、パパやママ、ジジやババたちに可愛い、可愛いっていわれて育ってきた。

でも、家族以外の友達ができ、外で一緒に遊ぶようになると、友達も友達の家族も、だれも私のことをカワイイなんて言ってくれない……

私、5歳で、家族みんな、うそつきだと思ってた。ううん、違う。私が本当のことを知って、傷ついたりしないように、かわいいってウソついてくれていたんだと思う。

そんな優しい家族たちを悲しませなくなかったから、私、精一杯明るく振舞うことにした。

ひょうきんで楽しい子。

みんながそういつてくれるように、みんなが私を好きになってくれるように、私は私を演じることに決めた。

2

小学校では、私、クラスのピエロだった。

いつも、冗談をいつては、みんなを笑わせ、わざと失敗をしては、みんなをあきれさせた。

みんなが私を笑って、楽しんでくれれば、きっと私を好きになつてくれる。そう、信じてた。

でも、そんなの私じゃない！

本当の私は、そんなおバカさんじゃない！

本当は、みんなに笑われたりするのなんかより、クラスのアイドル由貴ちゃんみたいに、黙ってても、みんなに好かれるような、だれからもかわいいつて言ってもらえるような、そんな女の子になリたかった。

だから、私、由貴ちゃんのこと、大嫌いだった。

学芸会の劇の配役を決めるとき、私は、真つ先に魔女の役に立候補した。だれもなり手がなかったから、すんなり私は魔女になった。クラスの女の子全員が演じたいと思っていたお姫様に選ばれたのは、もちろん、あのクラスのアイドル由貴ちゃん。私は、お姫様をいじめる悪い魔女……

劇の最後には、悪い魔女は退治されちゃうけど、由貴ちゃんを思う存分いじめられるって、すごく気持ちいい。

私は、劇の練習のときから、とても幸せだった。

私みたいな女の子が、みんなの憧れ由貴ちゃんをいじめるなんて、快感！

翌年も、その次の年も、私は、魔女だったり、意地悪な継母だったり……

そのときどきのクラスのアイドルたちをイジメにイジメ抜いた。すごく爽快な気分だった。楽しかったあ。

5年生になっても、私は、まだ魔女だった。

その日も放課後の劇の練習で、クラスのアイドルすみれちゃんをイジメて楽しんでいた。

彼女は、ボロボロの衣装を着て、眼に涙を浮かべながら、私が命じた部屋の掃除をしていた。本当、私から見ても、可憐な美少女だった。私が男の子だったら、一目ぼれしちゃったかもしれない……

でも、私に一目ぼれする男の子なんていない。そう思ったら、無性に腹が立ってきた。

練習が終わって、私が魔女の衣装を脱ごうとしていると、廊下側のドアから男の子がのぞいていた。

先週、転校してきた隣のクラスの川上君。

「なに見てるのよ！ エッチ！」

「あ、ごめん。ホント、本物の魔女みただからさ、つい」

川上君は、頬をポリポリ掻きながら、照れたような表情を浮かべて、私を見ている。

「ねえ、ホント、魔女みたいだねえ。魔法とか使えそう」

からかっているつもりかしら。私、ちよつと怖い顔を作って、

「いいかげん、私の前から消えないと、スズメに変身する魔法をかけちゃうぞ！」

川上君は、あははと笑った。

「ねえ、ねえ、ために、ボクに魔法をかけてよ。犬なんかいいなあ。スズメになって空を飛ぶのも楽しそうだけど」

ちよつとビックリした。同級生の男の子たちは、私のことをブス魔女ってあだ名つけたりして、バカにしてばかりだったのに・・・

「ねえ、魔法かけて」

川上君は心から楽しそうにしている。からかっているわけではないみたいだ。

私、川上君に魔法をかけるフリをしてあげた。

「アブダカダブラ、犬になーれ」

もちろん、私の指先から、魔法の粒が飛び出すこともなかったし、川上君の足元からポンと煙が立つこともなかった。

でも、川上君は、両手を胸の前でそろえ、ワンワン吠えながら、私の周りを一周した。そして、私にバイバイっていう風に軽く手を振ってから、ワオンと一声鳴いて、隣の教室へもどっていった。

私も、それから、教室にいた他の子たちも、あっけにとられて川上君を見ていただけだった。そして、気がついて、私、クスツと笑ってしまった。

私、そのとき、頭の隅で考えていた。

もう、魔女を今までみたいに楽しめないかも知れない。来年からは、私、魔女にはならないし、なれない！ って。

なぜって？

川上君が、私の魔女の呪いを解いていっちゃったから………

(後書き)

ブログで発表した作品の中で、一番好きな話です。
転載しておきます。

くまのすけの小説ブログ『恋とか、愛とか、その他もろもろ・・・』
・ ・ ・
『 : http://loveetc.seesaa.net
/

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3705i/>

魔法の呪い

2010年10月9日21時34分発行